

○ 中長期ロードマップの進捗状況の説明(月1回実施)について【定期的な情報提供の取組】

【自治体からの主なご意見等】

- ・南相馬市:汚染水が漏洩した場合などについては、環境にどの程度影響があるのかが明確に分かるようにして欲しい。
- ・川俣町:資料のボリューム感が多く専門用語もあり解りにくい点もあるが、やむを得ない面もある。ただし、住民向けには、東電の資料のように、もっと分かりやすく作って欲しい。説明は、A3紙1枚程度の簡素な資料が良い。
- ・広野町:現行どおり、A3紙の概要資料で概要とポイントを説明し、必要に応じて、詳細版の資料で、詳しく説明する方式が良い。敢えて言えば、全体の流れで今どこに位置しているのかが分かるように、これまでの動きを時系列に整理した年表のような資料があれば、なお良い。
- ・檜葉町:専門用語を使わず、小学生にも分かるように説明して頂きたい。
- ・川内村:説明資料については、廃炉工程中のどのあたりの作業なのかが分かるが良い。
- ・浪江町:廃炉全体について前月からの進捗が分かるよう、前月との比較表を別途東電に作成させて説明を受けている。
- ・葛尾村:工程が複雑で全体像が見えないので、各行程の進捗度合いを示す表があると良い。
- ・飯館村:原子力の担当部署が使うような専門用語はなるべく使用しないようにすべき。また、説明を受ける人は原子力の専門家ではないので、小中学生や一般主婦の方々に理解して頂けるような説明の仕方を心がけて欲しい。また、中長期ロードマップのようなシリーズものは、前月の説明と何が変わったのかを中心に説明して頂いた方が分かりやすい。

○ 今後の対応

上記のご意見等を踏まえつつ、今後、

- 1) 全体の中の位置づけや進捗度合いが分かるように資料や説明を工夫する、
- 2) 専門用語をなるべく使わない。使う場合にも解説をつける、
- 3) 原因や影響などの事象の意味合いが伝わるように説明を工夫する、
ことを心がけて御説明する。

【基本的な考え方】

(参考)前回資料

透明かつ迅速に行うことはもとより、

1. 事象の概要だけでなく、原因や影響、全体の廃炉作業での位置づけなど、事象の意味合いをご理解頂ける形で
2. 問題の程度・度合いについて、客観的な指標などと比較・評価いただける形で
3. 起きた事象の報告だけでなく、それに対する対処対応策も併せて
4. 文字だけでなく、イラストや画像等を活用した分かりやすい形で
5. ホームページだけでなく、インターネットを利用されない方々にも身近なメディアを通じて
地元の皆さまへの情報提供・コミュニケーションを行うよう努めていきます。

【正確な情報の積極的な発信】

誤解を招く報道等については、正確な情報を積極的に周知していきます。

1. 諸外国や海外機関・メディアへの情報提供

- (1) 外務省等を通じて、全在京外交団(計194の在京大使館、国際駐日事務所等)及びメディアに対する情報提供を実施。
- (2) 海外においても、在外公館・代表部を通じ、国際機関(IAEA等)や外国メディアに対する情報提供を実施。IAEAは評価を加えた上で発信。
- (3) 政府関係機関英文HPへの福島第一原発関連情報の掲載。在外公館HPにおいても、関連ページの紹介を実施(現地語による説明含む)。

2. 海外専門家(来日、シンポジウム等)を通じた情報発信

- (1) IAEA(国際原子力機関)による第2回レビュー(来日)【H25.11.25~12.4】: 12/4に記者会見を実施
- (2) IRID(国際廃炉研究開発機構)国際顧問の来日【H26.1.9・10】: 1/10に代表者がインタビュー対応
- (3) 日米廃炉・除染福島復興フォーラム(廃炉・除染の日米産業協力)【H26.2.18・19、東京】
- (4) IRIDの国際エキスパートグループの来日【H26.2.17~21】: 2/21に代表者がインタビュー対応

3. 国際会議等における福島県産品等のPR

(1) ジャパン・コンテンツ・ショーケース2013

日時: 10月22日(火)~24日(木)、場所: ホテルグランパシフィック LE DAIBA
内容: 福島の地酒を使用した鏡割、県内の観光を紹介する映像の上映 等

(2) ASEANフェア2013

日時: 12月15日(日)、場所: 東京プリンスホテル
内容: 福島の地酒を使用した鏡割、観光・県産品のPR 等

(3) 外務省 在京外交団との復興支援意見交換会【右の写真】

日時: 2月4日(火)、場所: グランドプリンスホテル新高輪
内容: 福島の地酒を使用した鏡割、福島県産品を使用した料理の提供 等

